

同志社大学公開講演会 2020,1,26 sun.

しあわせに生きるために いま僕たちにできること



ゲスト



高野翔さん



鈴木さよさん

1月26日(日)

14:00~17:30 (13:30受付開始)

@同志社大学 新町キャンパス

*参加無料/事前申し込み制 (定員 50 名)

[対象] 在学生・受験生・卒業生・一般の方

幸福。 それは人類にとって最大のテーマ。しかし、幸福に生きることはそう簡単ではありません。

どうやったら幸福に生きられるのか？ 従来、その問いに答えるのは宗教や哲学の役割でした。

しかし昨今では、心理学・社会学・経済学・政治学など様々な学問領域から、この「幸福学」についての研究が進みつつあります。

同志社大学政策学部1回生を対象にした授業「アカデミック・スキル～幸福学入門」では、様々な最新の研究成果を読み解きながら、「幸福な個人と社会のありかた」について学生と探求しています。

その授業全体の成果の発表会を公開で行います。受講学生たちが、学びの成果と幸福学実践の結果を発表します。

また「幸せの国」ブータンで「国民総幸福」(GNH)の国づくりに携わった JICA 職員の高野翔さんと、価値観や立場の違いを超え人に寄り添うファシリテーターとして活動されている鈴木沙代さんのお二人をゲストにお迎えします。

高野翔さんが携わる、福井新聞&日立京大ラボ共同による「ふくい×AI 未来の幸せアクションリサーチ」の研究成果もお話しいたできます。

ご関心のある方は、どなたでも参加大歓迎ですので、どうぞおいでください！

■ 概要

日時：2020年1月26日(日)

14:00-17:30 (開場 13:30)

会場：同志社大学 新町キャンパス

臨光館 2階 207 教室 (R207)

アクセス：

地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩 10 分



申込先：

<https://bit.ly/39dRwhE>

【問合せ】同志社大学 佐野淳也研究室

TEL：075-251-3564

E-mail：jsano@mail.doshisha.ac.jp

■ プログラム（予定）

- 1) 「幸福学」ってなんだろう？（佐野淳也）
 - ・幸福研究の概要とポジティブ心理学の知見などを紹介
- 2) 「ブータンと福井から考える、幸せな社会のつくりかた」（高野翔さん）
 - ・ブータン GNH の国づくりと「ふくい×AI 未来の幸せアクションリサーチ」の実践から考える、幸せな社会づくりのヒント
- 3) 「凸凹から生まれるしあわせ」（鈴木さよさん／奥野美里さん）
 - ・発達凸凹をはじめとする「多様性が拓くみらい」と、そこから生まれる幸せとは？
- 4) 幸福学実践報告（同志社大学 政策学部 1 回生 14 名）
 - ・授業で学んだ幸福学の考え方を日常で実践した学生たちの報告
- 5) 幸福学ワークショップ『しあわせに生きるために、いま僕たちにできること』
 - ・ゲスト、学生、参加者のみなさん全員で「幸せな生き方と社会」について対話



昨年度の様子

■ ゲスト

◎ 高野 翔さん（独立行政法人 国際協力機構（JICA）主任調査役）

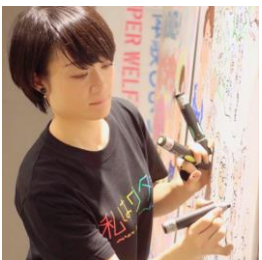


1983 年、福井県福井市生まれ。2009 年、JICA に入職し、これまでに約 20 ケ国のアジア・アフリカ地域で持続可能な地域づくりを担当。2014-2017 年まで、ブータンにて人々の幸せを国是とする Gross National Happiness (GNH) を軸とした国づくりを展開。地元福井では、福井の人の魅力を紹介する観光ガイドブック「Community Travel Guide 福井人」の作成（グッドデザイン賞 2013）、豪雪によってできなくなった福井市の事業を市民一人ひとりのできることで復活させる「できるフェス」の開催（グッドデザイン賞 2019）など、多数のまちづくり活動を手掛ける。現在は、福井新聞と日立京大ラボが共同で実施する「ふくい×AI 未来の幸せアクションリサーチ」のクリエイティブディレクターを務める。

【ふくい×AI 未来の幸せアクションリサーチ】

福井新聞創刊 120 周年として 2019 年 3 月より始動。福井県民の声から「家族・友人」「食と農」「健康」「時間の使い方」「仕事・マイプロ」「自然」「まちづくり」「学び」「文化」の 9 分野の主観的幸福を分類・見える化し、福井の「幸せ 150 指標」を作成。AI によって 2050 年の未来シナリオ 2 万通りのシミュレーションを行い、望ましいシナリオとそれに向けたアクションを提案した。

◎ 鈴木 さよさん（株式会社たがやす 取締役／同志社大学プロジェクト科目 兼任講師）



北海道大学大学院環境科学院 修了。疑問に思ったことは自分の目で見て感じて確かめたい、と 17 歳でイギリスに 1 年間滞在。その後、北極海研究船に 2 度乗船する。オフィス家具・文具メーカーに勤務後、北海道大学高等教育推進機構、明石工業高等専門学校、京都産業大学等の勤務の中で、価値観や立場の違いを超えて人に寄り添うことを可能にするグラフィックファシリテーションに出会う。話し合いを「自分ごと」にして、「行動」へと結びつける技術を活用して、議論の可視化や、ワークショップ、講演会など、グラフィックを活用した場づくりを行う。これまでに 700 件を超える現場をもち、現在は、発達凸凹への活用を中心として、組織開発や教育現場での活用法を探索している。

□ コーディネーター

◎ 佐野 淳也（同志社大学政策学部 准教授／日本ソーシャル・イノベーション学会理事）

1971 年、徳島市生まれ。法政大学大学院 公共政策研究科博士後期課程 満期退学。阪神淡路大震災での被災地 NPO、国際環境 NGO スタッフ、東京学芸大学環境学習研究員、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科准教授、徳島大学地域創生センター助教などを経て現在に至る。同志社大学では「NGO/NPO 論」「市民社会論」「ワークショップの理論と技法」などの授業を担当。「しあわせな人口減少社会のデザイン」が最近の研究テーマ。共著に「はじめてのファシリテーション」（昭和堂）ほか。

□ グラフィックナー

◎ 奥野 美里（株式会社オーティサイト コクリエ事業部ディレクター／凸凹フューチャーセンター共同代表）
ワークショップ・デザイン、ファシリテーション、グラフィックファシリテーションのスキルを軸に、組織開発や教育・研修プログラムの開発・実施、事業開発プロジェクト等に関わる。生涯学習財団認定ワークショップデザイナー。同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャルイノベーションコースに在籍し、キャリア、発達障害、ダイバーシティ&インクルージョン、ソーシャル・イノベーション、まちづくりなどをキーワードに活動。2020 年、京都・桃山に、フューチャーセンターの機能を持つコワーキングスペースをオープン予定。

■ 主催：同志社大学 政策学会

■ 協力：日本ソーシャル・イノベーション学会
凸凹フューチャーセンター

